

SEAねっと!



Vol.61
2023.7.14

2023. 3.31現在 総会員数156名 (正会員 66名・賛助会員 90名)
2023. 7.10現在 総会員数113名 (正会員 57名・賛助会員 56名)

「女性がない日本」という指摘

最近、意思決定する場に「女性がない日本」は、おかしい、異様だと感じる人が増えている。六月に栃木で行われたG7男女共同参画・女性活躍担当相の会合では、ずらりと並ぶ八名の担当相のうち日本だけが男性で「女性がない日本」を象徴していた。

世界経済フォーラムが2023年版「Global Gender Gap report」(世界男女格差報告書)を発表した。データをもとに男女格差の現状を評価したもので、146ヶ国中一位は14年連続アイスランド、アジアではフィリピン(16位)、シンガポール(49位)、ベトナム(72位)、タイ(74位)などが上り中位につけ、韓国(105位)、中国(107位)となっている。日本は前年の116位から9ランクダウンし、公表を開始した2006年には80位(116ヶ国中)だった順位は年々下がり、過去最低となった。

理由は簡単、政治と経済の意思決定する場に「女性がない」から。政治分野は、国会議員(衆議院)・閣僚・過去50年間の行政の長の在任期間の男女比から数値を割り出す(0.057(1に近い)ほど平等を示す)で、ワースト10に入る138位であった。5年前「政治分野における男女共同参画推進法」ができたにもかかわらず格差が埋まっていない。

2年前の推進法改正時に女性議員を増やすのに有効なクオーター(割り当て)制が導入できなかったことが響いている。

経済分野は、労働参加率・同一労働における賃金格差・推定勤労所得・管理的職業従事者の男女比の数値が0.561で、世界123位であった。こちらも「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」があるのに、女性管理職比率の低さは133位と下位のままである。

とはいえ政治、経済だけでなくあらゆる分野に「女性がない」ことはおかしい、異様だと感じ、声をあげ、行動する人が増えている。4月の統一地方選では、地方議員全体で当選した女性は29.4%で過去最高だったし、栃木のG7の男女共同参画・女性活躍担当相の記念写真の奇妙さを問題にした人は多かった。「女性がない」ことを不思議に思わない社会から、おかしい、異様だと感じる社会に、意識の変化は大きい。日常的に「女性がない日本」を見つけたら、どんどん指摘していきたいと思う。

理事長 小川真知子



2023年度 第23回 SEAN通常総会 報告

5/28(日) 10:00~11:25 会場：SEAN事務所 (高槻市) & オンライン上

総会時正会員47名 (出席15名 委任状31名)



2022年度は、新型コロナウイルスの影響はかなり落ち着き、収入基盤である保育依頼・講師依頼の件数はかなり回復した。教育部門「G-Free」の出前授業数も増加し、そして昨年同様に、高槻市委託「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」(6月~3月)に採択され事業拡大となったことで、事務所にも賑わいが戻り各々の事業が順調に遂行され、黒字決算となったことが報告された。